新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について

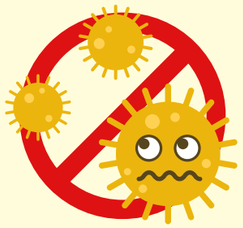
医療安全管理室

既にご存知かと思いますが、世界的にSARS-CoV-2というウイルスによる新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行しています。青森県内でも発症者がみられるようになりました。咳エチケットや手洗いの徹底、不要不急の外出や３つの密（密閉・密集・密接）を避けるなど、いろいろな対策が厚生労働省などから発信されています。

精神科病院では、自己衛生管理が不十分だったり、構造上閉鎖的な環境であることから、感染症が発生すると蔓延しやすい状況にあると言われています。当院では今のところCOVID-19を疑うような職員や患者は発生していませんが、感染対策の基本である標準予防策（手指衛生や環境整備など）を実施し、職員や入院患者の皆様の健康管理に気を付けるようにしています。

患者やご家族の皆様には、次の点についてご協力をお願いします

・手洗いや咳エチケットを徹底する
・不要不急の面会や外出泊を避ける
・外来受診時の体温測定や待合室では他者と距離を保つ
・発熱や咳など風邪症状がある場合は来院しない



入院患者への面会制限のお知らせ

つくしが丘病院では、新型コロナウイルスの感染の予防として、当面の間、入院患者への面会を制限させていただきます。

つきましては、面会は主治医が許可した方のみとし、最大２人まで１５分程度に限ります。

ご理解・ご協力よろしくお願いします。

今後の『家族教室』開催予定

第５回　令和３年３月５日（金）「依存症について」は**中止**になりました。

☆禁煙についてご協力のお願い☆

青森県立つくしが丘病院の敷地内は平成３０年４月１日から完全禁煙となっておりますので、患者の皆様、ご家族の皆様も禁煙にご協力いただきますようお願いいたします。

青森県立つくしが丘病院
〒038-0031 青森市三内字沢部353番地92　TEL 017-787-2121
ホームページ　https://aomori-tsukushigaoka.jp/
アクセス
青森市営バス
・古川バス停から「つくしが丘病院行き」又は「岩渡行き」約20分
タクシー
・JR青森駅から約20分
・JR新青森駅から約５分

すぎな
青森県立つくしが丘病院
第178号

「あおもり医療・介護手帳」について

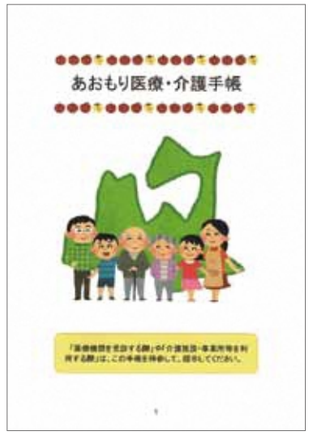
認知症疾患医療センター　津川貴史

認知症疾患医療センターでは認知症の方が地域で安心して生活できることを目的に医療機関を受診したり、介護サービスを受けたりする際に本人･家族･支援者が情報を共有しながらより良いケアを受けるためのツールとして「**あおもり医療･介護手帳**」の配布を開始しました。この手帳は青森県で作成したもので、各圏域の認知症疾患医療センターが中心となり配布されており、今後は各市町村からの配布も検討されています。

医療機関を受診する際や介護施設･事業所等を利用する際にこの手帳を持参して提示してもらうことになります。

具体的にどのような手帳かというと、ご本人の情報、医療のこと、介護のこと、認知症のこと、生活のこと、薬のこと、これからのことといった項目を本人や家族、支援者が書き込んで使用します。ご本人は認知症の症状により、正確に自身の周りの状況を説明することが難しいことが多々あります。本当は眠れていないのに「よく眠れています」とご本人は答えるかもしれません。そうすると本来処方されるべき薬が処方されないかもしれません。ご本人の正しい情報を関係者で共有することがとても大事なわけです。また、「情報交換シート」というものも挟み込まれており、関係者間でのコミュニケーションツールとしても活用できるものになっています。日頃ご本人と接する中での疑問点を質問したり、ご本人の生活の様子を連絡したりするための連絡ノートのようなものです。

例えば、医療機関などで医師に長い時間をとってもらうことは難しいことが多いです。あらかじめ聞きたい内容を質問項目として記載し、診察時に提示することで、聞き逃しを防ぐことができたり、医療機関側からも必要項目を記載することで、診察に同行できなかった家族や関係者へ正確な指示を伝えることができたりします。関係者の皆様にもご記入いただくことで、関係機関の連携が円滑にできるようになり、ご本人をケアする上で重要なツールとなっています。



現在、当院の認知症疾患医療センターでは当院を受診し認知症の確定診断を受けられた方が配布対象となっています。配布する際には手帳の使い方について説明を行い、利用に同意してくれた方へ配布を行っています。配布を希望される方は受診時などに気軽にお問い合わせください。

「**あおもり医療･介護手帳**」についてのお問い合わせ先は
青森県立つくしが丘病院 認知症疾患医療センター
（017-787-2988）になります。

退職にあたって

運営室長　中野　顕

前任者との事務引継ぎにつくしが丘病院に向かう途中、三内霊園を過ぎ、人家のほとんど途絶えた山の中に入った時、ふと思い浮かんできたのは、「これがまあ　終のすみかか　雪五尺」（小林一茶）の句でした。

これまで健康福祉行政に携わったことのなかった私が、定年までの残り２年間、この地で勤務するのかという半ば諦めと不安の入り混じった思いを抱えながら病院の門をくぐったのが正直な気持ちです。

しかし、勤務して１週間もたたないうちに、その思いは消し飛びました。院長はじめ医局、看護、運営室の職員皆さんの穏やかで、淡々と真摯に仕事に向き合う姿勢を目のあたりにして、これまでの自分の狭い了見を恥じ、皆さんと一緒に仕事に向き合っていこうと心を新たにしたことが昨日のように思い出されます。

つくしが丘病院での２年間、訪問看護ステーション「つくしのえん」の立ち上げをはじめ、救急入院診療体制の確立、また、今年度はコロナ感染予防対策などのお手伝いをさせていただきました。今日まで、素人同然の私を支えてくださったのは、職員皆さんの温かい御指導・御協力によるものと深く感謝しております。自分なりに試行錯誤しながら精一杯やってきたつもりではありますが、至らぬ点が多々ありましたこと御容赦願います。

私が以前勤務した下北地方には、「下北の３泣き」という言葉があります。最初の「泣き」は、辺境の地である下北に転勤したことを嘆いて泣き、２番目の「泣き」は、そこに住む人々の人情に触れて泣き、３番目の「泣き」は、転勤が決まり離れがたいといって泣くという意味です。

つくしが丘病院でも「つくしの３泣き」があるのではないでしょうか。

今こうして原稿を書いていますが、定年まで３か月を切りました。残りの日々を大切にしながら、これまで同様に皆さんのお役に立てるよう仕事に励んでまいります。

最後に、つくしが丘病院に勤務した年月は、私の公務員生活を締めくくるに相応しい思い出に残るものでした。縁あって、こうして皆さんと一緒に仕事ができたことに改めて感謝しております。本当にありがとうございました。

看護師生活を振り返って

C病棟主任看護師　齋藤　照美

看護師生活を振り返って、昭和・平成・令和の時代を看護してきたのかと思うと自分でも驚きです。今は懐かしく思うのですが卒業後、小児科に配属となり「同じ病人でも無邪気な子供と接する方が楽しいかな？」と気楽に考えていたのです。

しかし、アナムネーゼ聴取をしてびっくり、スキャンダラスな親の事や、ネグレクト、これって違法だよね？と思う事など世間知らずの田舎者だった私が、人間の裏側を数々見る事となったのです。学生実習の時は配慮されていたのか衝撃的な患者を持つことはありませんでした。医療者に守秘義務があると知っていましたが若い頃の私は、深くプライバシーと密接した仕事とは考えず、本当に幼稚だったと思います。

今まで色々な事情を抱えた患者やその家族と接してきて、看護は病気を診るのではなくて、病気を含めたその人を見る、精神科においてはその人の背景にあるものを考え看護する難しさを知ったと思います。患者が社会の一員として生活できるように多職種と連携して退院となった時は充実感でいっぱいでした。

これまで、病院スタッフの方々には本当にお世話になり感謝申し上げます。

つくしが丘病院での研修を終えて

青森市民病院　　研修医　梅﨑　仁志

二年間の初期研修も終盤に差し掛かっていますが、市民病院では精神科が休診しており、これまで精神疾患の方と接する機会はほとんどありませんでした。そういった中で、つくしが丘病院での研修はとても貴重な経験となりました。精神疾患と聞くと、少し特殊というイメージを持っていましたが、実際に患者さんの問診などを経験すると、程度の差こそありますが、認知症や不眠症をはじめとし、ごく身近な疾患も多いなと感じました。日本は超高齢化社会にあり、さらに高齢化率も年々進行しています。また最近では「コロナうつ」という言葉も出てきており、これからの社会において、ますます精神科の重要性は高まってくるなと感じました。

研修で感じたこと・学んだことを忘れずに、これからの診療に活かしていきたいと思います。先生方はもちろんのこと、その他のスタッフの方々にも大変お世話になりました。短い期間でしたが、本当にありがとうございました。

青森県立中央病院　初期研修医　小山　新太郎

精神科での研修が必須となり、一般診療における精神疾患や精神保健の機運が高まっているように感じます。今までの研修では例えば右下腹部痛があって、CTで虫垂の周囲脂肪織濃度上昇など客観的な所見があるから虫垂炎を治療しようという、患者さん含め全員が見て理解できる形で治療されていました。しかし精神疾患では病識のない方も多く、それでも治療し、場合によっては非自発的入院をさせる必要もあるため、自分の言動一つ一つが影響してくるようでとても難しいと思いました。また毎日の新患で様々な精神疾患を持つ方の問診をさせて頂き、それぞれの疾患を持つ方が実際どのようであるか見ることができたので、今後はある程度精神疾患の鑑別を想起しながら診療できるようになったと思います。最後にご指導ご鞭撻頂いた先生方、毎日明るく挨拶し優しく接して下さった病院内全ての職員の皆様に感謝致します。本当にありがとうございました。

院内作品展示会を開催しました!!

作業療法士　阿部　周悟

残念ながら今年は、コロナウイルスにより「こころの健康展」が中止となりました。

そこで11/17～20の期間に院内作品展示会を行いました。展示した作品は、入院患者様、外来患者様が作成したもので、塗り絵やペーパークラフト、刺し子やステッチを加工したポーチ等を展示しました。

作品を見ていた患者様からは、「すごい」や「きれい」と話している方が多く、「作ってみたい」「やってみたい」と興味を持ってくれた方もいました。実際に展示会で見たものを作成した患者様もいたようです。また、外来患者様も見に来てくださり、スタッフの方にも見に来ていただきました。

初めて行った行事で至らない点が多かったと思いますが、皆様の協力のもと無事終えることができました。ご協力ありがとうございました。

作品を出展してくださった患者様もありがとうございました。